

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100239		
法人名	社会医療法人		
事業所名	グループホームおおざい憩いの苑 きらめき		
所在地	大分市大字志村字谷ヶ迫587番地の1		
自己評価作成日	平成25年6月17日	評価結果市町村受理日	平成25年8月16日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成25年7月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・周囲を緑に囲まれた静かな環境で、鳥のさえずりや虫の声を聞き、四季折々を肌を感じ、ゆったりした時間を過ごせています。
 ・ホームのモットーである「あなたらしくいきいきと」を念頭に、入居されている方々の、精神的安定と身体機能を低下させないことを第一に考え、サービスを提供しています。
 ・同敷地内には法人系列の病院があり、体調不良時、また急変時すぐに受診できる体制を整えて折り、入居されている方々の体調管理の安定に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・事業所内を自由に活動できる環境づくりや、生活歴に配慮された外出支援が行われており、利用者の精神的安定、身体面の機能維持に繋がっている。
 ・寝衣を毎日交換し、外出時の着替えや整容に配慮された生活支援が行われている。
 ・利用者支援や業務の話し合いなど、職員の意見を出しやすい環境が出来ており、事業所運営に活かされている。
 ・積極的に地域や近隣との付き合いや交流が行われている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	2. 利用者の2/3くらいの	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいの	4. ほとんど掴んでいない			3. 家族の1/3くらいと	4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	2. 数日に1回程度ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	2. 数日に1回程度
		3. たまにある	4. ほとんどない			3. たまに	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんどいない			3. あまり増えていない	4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんどいない			3. 職員の1/3くらいが	4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんどいない			3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんどいない			3. 家族等の1/3くらいが	4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが				
		3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスでの意義を踏まえた理念は掲げている。地域社会との交流については実践のつながりは薄い、その他の理念に関しては管理者及び職員は深く理解し、ケアへの実践につなげている。	母体法人の理念をふまえ、事業所独自の理念が作られており、日々の利用者支援や地域交流に反映されている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	体調・天候の良い日は、散歩に出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり、話しをしたりしている。自治区に入会し、近隣住民の方々と馴染みの関係を築くようにしている。	近隣住民との日常的な交流があり、野菜の差し入れや草取り、花の苗植えの協力が得られている。また、積極的に地域行事にも参加している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者及びスタッフは事業所での実践内容を踏まえて、地域の様々な研修等に関わりながら、認知症ケアの啓発に努めている。また、人材育成の貢献として、実習生の受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動や入居者の現状報告等を行っている。参加者からは貴重な意見が出され参加者及び事業所にとって、とても有意義な会議となっている。	会議は、2ヶ月ごとに開かれ、事業所行事や利用者の報告が行われている。委員からの地域行事等の情報提供が、事業所の地域交流に活かされている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは事業所の実績やケアサービスの取り組みを機会あるごとに報告している。また認定更新等の機会に市町村担当者へ、利用者の暮らしぶりやニーズを伝え、連携を深めている。	大分市大在支所から、地域活動参加の呼び掛けを受け、利用者と共に河川敷のコスモの種まきに参加している。地域の子供達や他の参加者との交流の場となった。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び全職員で安全面に配慮しながら、その時々への行動に対し見守り声かけを行い拘束をしないケアを実践している。	玄関や敷地内は施錠することなく、2つのユニットの間にある事務所にも自由に出入りができる。利用者の生活歴を理解したうえで、安全に自由な暮らしを送ることが出来るよう努められている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の人権擁護や身体拘束ゼロについて職員全体会議で議題に上げ意見交換を行っている。		

事業者名: グループホームおおざい憩いの苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加し、内部勉強会で伝達講習を必ず行い、全職員に理解を深めるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分説明し、署名・捺印をして頂くようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに対する意見や苦情については管理者や計画作成者が窓口になって対応している。又ご意見箱を設置し気軽に意見を伝えられるように場所も考慮して設置している。毎月、請求書送付時、意見・要望の用紙を同封している。	季節毎の衣類や寝具の交換や受診の際に、家族との関わりが継続するよう、家族の来所を基本としており、その都度、意見や要望を聞くように努めている。職員会議には、利用者の参加もあり、発言の場がもたれている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、要望はミーティングや定例会議（職員全体会議）で聞くようにしている。また、日頃から職員との積極的なコミュニケーションを図り意見交換を行っている。	毎月開かれる職員会議は、職員参加の下、日勤時間帯に開かれている。業務の見直しや、利用者支援など、積極的な意見交換が行われている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格習得に向けた支援を行い、向上心を持って働けるように取り組んでいる。勤務の希望は、できる限り全員に組み入れている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人による目標管理シートを作成し、個々の目標達成に向けて、できる限り研修を受ける機会を与えることで、スキルアップに努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の事業所などと交流を持つことにより、一緒に学んだり、親睦を深めたり、お互いにサービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、本人の意向を必ず確認している。又、入居直後は、環境の変化で不安が大きく情緒不安定になるため、目配り・気配り強化に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、面接調査時に本人及び家族の要望や意見を聞き対応している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前、サービス、ケア利用が日課となっていて、入居後も引き続きデイ利用を希望された場合や精神的安定を図る必要性がある時などは、医療ケアの調整を行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事(調理 洗濯 掃除等)について入居者の残存機能に応じて、積極的に参加して頂いている。共に行う上で人生の先輩であることを尊重しお互いに支えられる関係作りを行っている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡にて、近況報告を伝えている。必要に応じては、協力支援を依頼している。毎年、家族宛に入居者(書ける方は自分・書けない方は職員代筆)で年賀状を送っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の馴染みの人に手紙や電話など家族の協力を得ながら関係が継続出来る働きかけを行っている。	年賀状は毎年出している。日常的に行われるドライブの際に、自宅や懐かしい場所を訪問している。電話の依頼があれば、仲介し、家族や馴染みの人との繋がりが絶えないように努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性について職員が情報を共有し利用者同士の関係がスムーズに行えるように職員が働きかけを行っている。現在まで入居者同士のトラブル等はなく良い関係が出来ている。		

事業者名: グループホームおおざい憩いの苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい住まいでも、暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、きめ細かい連携を心がけている。また、家族からの相談にもものっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションを図る中で、思いや意向の把握に努めている。又介護記録(日報)等から本人の思いを汲み取るように努めている。	職員は、利用者の生活背景を理解している。また、日常のコミュニケーションや表情から様々な思いや意向の把握に努め、職員間の共有も行われている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの作成、家族、関係者、医療機関からの情報の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや日々の様子を観察、心身状態を把握し介護記録(日報)に記録し職員間の情報交換に努めている。記録(日報)及び確認することにより現状把握維持に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族の意向を踏まえ本人が楽しめること、好きなこと、家族が希望することを聞き反映させている。	利用者の楽しみ事や思いを組み込んだ介護計画が作成されている。事業所独自に作られた様式の個人介護記録には、介護計画に沿った支援記録が記載され、職員間で共有されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人一人の様子を介護記録(日報)に記載し、全職員で共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時及び家族が定期受診に付き添えない時は、職員が付き添い受診支援を行っている。		

事業者名: グループホームおおざい憩いの苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の場等で地域包括支援センター、民生委員、自治会長より情報を頂き、地域の行事などに参加している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医又は協力医療機関を定期的に受診または往診してもらい、健康管理を行っている。必要時情報を提供している。	2名の利用者が往診であり、他の利用者は母体法人の病院が掛かりつけ医となっている。7名の利用者が精神科医療デイケアを利用するなど、専門医との連携が図られている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護職が入居者のバイタルチェックを毎日実施し常に情報交換を行っている。又主治医には必要時情報を伝えている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院が隣接しているため常日頃からソーシャルとの連携をとっており情報収集も可能であるためスムーズな対応が出来ている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合に関しては書面にて説明し同意を頂いている。	同一法人の病院が同一敷地内にあり、緊急時の医療連携体制が整っている。また、重度化の際は、利用者・家族の意向を基に、医療機関と話し合いながら、無理のない対応や支援をしていく方針が話し合われている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人が全体必須として開催しているBLS研修に時間の許す限り参加し、実践力を身につけるように努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確保、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。自治区にも加入して地区の消防団との連携も予定している。	年2回、消防署参加の下、夜間想定での避難訓練を行っている。火災予防週間には、地域の消防団の夜廻りもあり、事業所内の立ち入り、確認が行われている。3日分の食糧備蓄がある。	

事業者名: グループホームおおざい憩いの苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	支援時は、必ず声掛けを行うと共に、プライバシーの保護に留意している。また、各居室入り口のドアは、本人がいるいないに関わらず必ず閉めて対応している。尚、外出時は、ドアを施錠している。	利用者の個性を大切に、言葉掛けや対応に配慮した支援を行っている。共同生活の中で、利用者の得意な事を発揮する場面を作るなど、誇りを大切にしたその人らしさを活かす支援に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の能力にあった対応を心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れがあるが一人一人の体調や生活パターンを把握し支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1回/月美容師の訪問にて希望に添ってカット カラー パーマなど行っている。日常の更衣は本人に衣類を選んで頂いたり、イベントや外出時は化粧をする時間を提供している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備(テーブル拭き 箸並べなど)や後片付けを一緒に行っている。食事は職員と一緒に明るい雰囲気の中で食べてもらうように心かけている。	3食共に隣接する病院で、栄養管理され、献立が立てられており、昼食のみ事業所で作られている。食事介助の必要な利用者も、意欲や状況に配慮した声掛けや介助により、穏やかに食事をすることが出来ている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量 水分摂取量は記録をし全職員が把握出来るようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後フロア又は居室の洗面台で歯磨きを行ってもらうよう声かけをする。上手く磨けない入居者には口腔ケアを行っている。		

事業者名: グループホームおおざい憩いの苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンを把握し声かけ誘導を行っている。	利用者のプライドに配慮し、不快な思いをすることなく過ごせるよう、排泄の確認やトイレ誘導を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取 散歩 レク体操(適度な運動)にて便秘予防に努めている。下剤 整腸剤はかかりつけ医に処方して頂き調整している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	スタッフ配置にて、最低週3回は入浴してもらっている。しかし、拒否または体調不良時は、日時を変更 又は清拭 更衣等を行い工夫をしている。	週3回の入浴を基本に、体調や気分配慮しながら、入浴支援を行っている。座位のまま、車いす利用で浴槽に浸かることのできない利用者には、入浴効果のある特殊入浴機材(ザシャワー)を設置するなど、工夫した入浴支援も行われている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ共有のフロアで活動して頂き夜間良眠出来るように支援する。天気の良い日は布団を干したり居室の環境を整え、良眠出来るように努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理については、職員が責任を持ち見守り又は介助にて服薬管理を行っている。薬品説明書を1冊のファイルし職員がすぐ閲覧 把握出来るようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に張りをもって頂く為に好きなこと、できること、得意なことを見出し活動の時間を提供している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほぼ毎日ドライブ外出、天候の良い日は近隣を散歩できる時間を設けている。尚、本人が買い物や自宅外出を希望された場合は意向に沿うように支援している。	日常的に、屋外や事業所内の散策が自由に出来ている。天候に左右されることなく、ドライブに出掛け、個別外出や集団での外出も行われている。	

事業者名: グループホームおおざい憩いの苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には個人で管理しないようになっていいるが、希望があれば少額自分で管理している。自分で管理している方においては、買い物時、支払って頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話やはがきを出せるように支援している。(事前にご家族に承諾)		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のホールは、外出時や行事の写真を掲示している。また、花を飾ったり、季節の行事にはフロアにひな人形や五月人形等を飾るなどして四季折々を感じて頂いている。	共有スペースには、テーブルやソファが設置され、畳の間もあり、利用者が、一人でゆったり過ごしたり、気の合う仲間と集うなど、思いおもいに過ごす事が出来る。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや堀こたつなどを設置することで、入居者同士がゲームをしたり、ゆっくり談笑したり、横になったりと、思い思いに過ごせている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や大切な物を持ち込んで頂き、馴染みな物に囲まれた居室で、居心地よく過ごせるようにしている。	使い慣れた椅子、パソコン、仏壇などが置かれ、利用者の個性に合わせた居室づくりが行われている。日々の利用者の写真が収められたアルバムが各居室に置かれ、利用者の生活歴を知ることが出来る。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が安全に生活できるように、家具などの配置に工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100239		
法人名	社会医療法人		
事業所名	グループホームおおざい憩いの苑 ほほえみ		
所在地	大分市大字志村字谷ヶ迫587番地の1		
自己評価作成日	平成25年6月17日	評価結果市町村受理日	平成25年8月16日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成25年7月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・周囲を緑に囲まれた静かな環境で、鳥のさえずりや虫の声を聞き、四季折々を肌を感じ、ゆったりした時間を過ごせています。</p> <p>・ホームのモットーである「あなたらしくいきいきと」を念頭に、入居されている方々の、精神的安定と身体機能を低下させないことを第一に考え、サービスを提供しています。</p> <p>・同敷地内には法人系列の病院があり、体調不良時、また急変時すぐに受診できる体制を整えて折り、入居されている方々の体調管理の安定に努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>(きらめきと同様)</p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスでの意義を踏まえた理念は掲げている。地域社会との交流については実践のつながりは薄いですが、その他の理念に関しては管理者及び職員は深く理解し、ケアへの実践につなげている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	体調・天候の良い日は、散歩に出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり、話しをしたりしている。自治区に入会し、近隣住民の方々と馴染みの関係を築くようにしている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者及びスタッフは事業所での実践内容を踏まえて、地域の様々な研修等に関わりながら、認知症ケアの啓発に努めている。また、人材育成の貢献として、実習生の受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動や入居者の現状報告等を行っている。参加者からは貴重な意見が出され参加者及び事業所にとって、とても有意義な会議となっている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは事業所の実績やケアサービスの取り組みを機会あるごとに報告している。また認定更新等の機会に市町村担当者へ、利用者の暮らしぶりやニーズを伝え、連携を深めている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び全職員で安全面に配慮しながら、その時々への行動に対し見守り声かけを行い拘束をしないケアを実践している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の人権擁護や身体拘束ゼロについて職員全体会議で議題に上げ意見交換を行っている。		

事業者名: グループホームおおざい憩いの苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加し、内部勉強会で伝達講習を必ず行い、全職員に理解を深めるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分説明し、署名・捺印をして頂くようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに対する意見や苦情については管理者や計画作成者が窓口になって対応している。又ご意見箱を設置し気軽に意見を伝えられるように場所も考慮して設置している。毎月、請求書送付時、意見・要望の用紙も同封している。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、要望はミーティングや定例会議(職員全体会議)で聞くようにしている。また、日頃から職員との積極的なコミュニケーションを図り意見交換を行っている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格習得に向けた支援を行い、向上心を持って働けるように取り組んでいる。勤務の希望は、できる限り全員に組み入れている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人による目標管理シートを作成し、個々の目標達成に向けて、できる限り研修を受ける機会を与えることで、スキルアップに努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の事業所などと交流を持つことにより、一緒に学んだり、親睦を深めたり、お互いにサービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、本人の意向を必ず確認している。又、入居直後は、環境の変化で不安が大きく情緒不安定になるため、目配り・気配り強化に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、面接調査時に本人及び家族の要望や意見を聞き対応している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前、サービス、ケア利用が日課となっていて、入居後も引き続きケア利用を希望された場合や精神的安定を図る必要性がある時などは、医療ケアの調整を行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事(調理 洗濯 掃除等)について入居者の残存機能に応じて、積極的に参加して頂いている。共に行う上で人生の先輩であることを尊重しお互いに支えられる関係作りを行っている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡にて、近況報告を伝えている。必要に応じては、協力支援を依頼している。毎年、家族宛に入居者(書ける方は自分・書けない方は職員代筆)で年賀状を送っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の馴染みの人に手紙や電話など家族の協力を得ながら関係が継続出来る働きかけを行っている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性について職員が情報を共有し利用者同士の関係がスムーズに行えるように職員が働きかけを行っている。現在まで入居者同士のトラブル等はなく良い関係が出来ている。		

事業者名: グループホームおおざい憩いの苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい住まいでも、暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、きめ細かい連携を心がけている。また、家族からの相談にもものっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションを図る中で、思いや意向の把握に努めている。又介護記録(日報)等から本人の思いを汲み取るように努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの作成、家族、関係者、医療機関からの情報の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや日々の様子を観察、心身状態を把握し介護記録(日報)に記録し職員間の情報交換に努めている。記録(日報)及び確認することにより現状把握維持に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族の意向を踏まえ本人が楽しめること、好きなこと、家族が希望することを聞き反映させている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人一人の様子を介護記録(日報)に記載し、全職員で共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時及び家族が定期受診に付き添えない時は、職員が付き添い受診支援を行っている。		

事業者名: グループホームおおざい憩いの苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>運営推進会議の場等で地域包括支援センター、民生委員、自治会長より情報を頂き、地域の行事などに参加している。</p>		
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>主治医又は協力医療機関を定期的に受診または往診してもらい、健康管理を行っている。必要時情報を提供している。</p>		
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師と介護職が入居者のバイタルチェックを毎日実施し常に情報交換を行っている。又主治医には必要時情報を伝えている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院が隣接しているため常日頃からソーシャルとの連携をとっており情報収集も可能であるためスムーズな対応が出来ている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に重度化した場合に関しては書面にて説明し同意を頂いている。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>法人が全体必須として開催しているBLS研修に時間の許す限り参加し、実践力を身につけるように努めている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確保、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。自治区にも加入して地区の消防団との連携も予定している。</p>		

事業者名: グループホームおおざい憩いの苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	支援時は、必ず声掛けを行うと共に、プライバシーの保護に留意している。また、各居室入り口のドアは、本人がいるいないに関わらず必ず閉めて対応している。尚、外出時は、ドアを施錠している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の能力にあった対応を心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れがあるが一人一人の体調や生活パターンを把握し支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1回/月美容師の訪問にて希望に添ってカット カラー パーマなど行っている。日常の更衣は本人に衣類を選んで頂いたり、イベントや外出時は化粧をする時間を提供している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備(テーブル拭き 箸並べなど)や後片付けを一緒に行っている。食事は職員と一緒に明るい雰囲気の中で食べてもらうように心かけている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量 水分摂取量は記録をし全職員が把握出来るようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後フロア又は居室の洗面台で歯磨きを行ってもらうよう声かけをする。上手く磨けない入居者には口腔ケアを行っている。		

事業者名: グループホームおおざい憩いの苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンを把握し声かけ誘導を行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取 散歩 レク体操(適度な運動)にて便秘予防に努めている。下剤 整腸剤はかかりつけ医に処方して頂き調整している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	スタッフ配置にて、最低週3回は入浴してもらっている。しかし、拒否または体調不良時は、日時を変更 又は清拭 更衣等を行い工夫をしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ共有のフロアで活動して頂き夜間良眠出来るように支援する。天気の良い日は布団を干したり居室の環境を整え、良眠出来るように努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理については、職員が責任を持ち見守り又は介助にて服薬管理を行っている。薬品説明書を1冊のファイルし職員がすぐに閲覧 把握出来るようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に張りをもっと頂く為に好きなこと、できること、得意なことを見出し活動の時間を提供している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほぼ毎日ドライブ外出、天候の良い日は近隣を散歩できる時間を設けている。尚、本人が買い物や自宅外出を希望された場合は意向に沿うように支援している。		

事業者名: グループホームおおざい憩いの苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には個人で管理しないようになっているが、希望があれば少額自分で管理している。自分で管理している方においては、買い物時、支払って頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話やはがきを出せるように支援している。(事前にご家族に承諾)		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のホールは、外出時や行事の写真を掲示している。また、花を飾ったり、季節の行事にはフロアにひな人形や五月人形等を飾るなどして四季折々を感じて頂いている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや堀こたつなどを設置することで、入居者同士がゲームをしたり、ゆっくり談笑したり、横になったりと、思い思いに過ごせている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や大切な物を持ち込んで頂き、馴染みな物に囲まれた居室で、居心地よく過ごせるようにしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が安全に生活できるように、家具などの配置に工夫している。		